

トマト黄化葉巻病及び媒介虫タバココナジラミ類の防除技術の開発

農林センター 環境部

要旨

トマト黄化葉巻病を媒介し、有効な殺虫剤の少ないタバココナジラミ・バイオタイプQに対して、数種の気門封鎖剤の防除効果が高い。また、黄色粘着フィルムを施設内部または外部に設置することによりコナジラミ類の発生を大幅に低く抑えることができる。

成果の概要

タバココナジラミ・バイオタイプQの幼虫、成虫に対する気門封鎖剤の防除効果は、1齢幼虫では、脂肪酸グリセリド乳剤、ナタネ油乳剤及びマシン油乳剤（表1）、3齢幼虫ではナタネ油乳剤及びマシン油乳剤、雌成虫ではナタネ油剤で高く、90%以上の補正死虫率が得られる。

黄色粘着フィルムをトマト株生長点付近に地面と水平に張る施設内部設置で効果が高く、長期間に渡ってコナジラミ類の発生を抑える。ハウス両側面外部ネットと平行に約20cm離して張る施設外部設置でも、内部設置より劣るものの、無設置に比べてコナジラミ類の発生を抑える（図1）。

表1 タバココナジラミバイオタイプQ 1齢幼虫に対する各種気門封鎖剤の効果

薬剤名	処理濃度(倍)	供試個体数(匹)	補正死虫率(%)
オレイン酸ナトリウム液剤	100	160	86.8
脂肪酸グリセリド乳剤	300	135	94.5
デンブン液剤	100	132	75.8
ナタネ油乳剤	200	146	100.0
マシン油乳剤	200	223	95.1

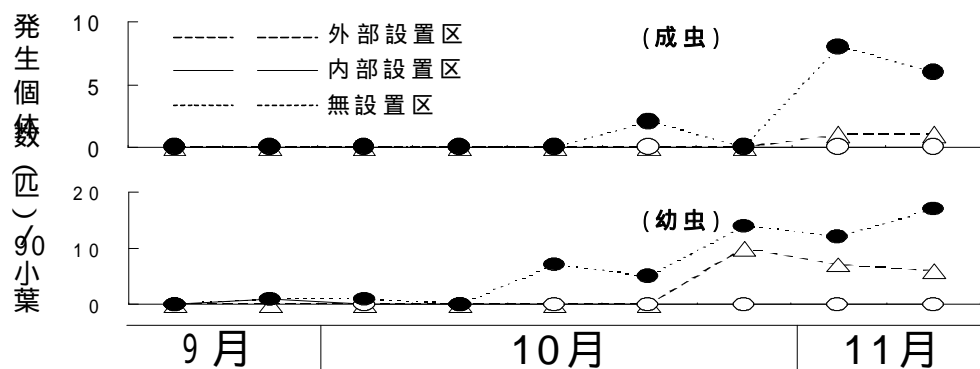


図1 トマトハウス黄色粘着フィルム設置区におけるコナジラミ類発生推移

(問合せ先: Tel.0771-22-6494)